

令和5年度 経営協議会（第5回）議事要録

日時 令和6年1月19日（金）13時30分から14時30分

場所 3号館2階第1会議室

出席者 【委員】 森迫学長（議長）

赤松委員、位高委員、奥村委員、門川委員、京藤委員、錦織委員、
西本委員、古川委員、堀場委員

吉本委員、寶珍委員、PEZZOTTI 委員、真下委員、乾委員、
堀内委員、増田委員、亀井委員

【陪席者】 総務企画課長、人事労務課長、会計課長、施設環境安全課長

議事に先立ち、森迫学長から令和6年能登半島地震の犠牲者に哀悼の意を表するとともに、本学の対応状況について説明があった。

また、令和5年度第4回の議事要録について最終確認が行われ、原案どおり承認された。

議題1. 令和5年度補正予算（第2号）編成について

真下財務担当理事から、令和5年度補正予算（第2号）編成について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

本件に関し、委員より以下の意見があった。

・教育・研究・社会貢献活動を支える基盤的施設整備・設備整備に関して、施設及び設備の整備等に係る事業費をすべて計上できているのか。それとも予算に合わせて計上しているのか。

→後者である。老朽化が進んでいるところから優先的に計上している。

報告事項1. 令和6年度運営費交付金等の予定額について

真下財務担当理事から議案書に基づき報告があった。

本件に関し、委員より以下の意見があった。

・ミッション実現加速化係数 $\Delta 0.8\%$ 分について、この減額分が成果を中心とする実績状況に基づく配分に移る、という認識でよいか。

→移るわけではなく、ミッション実現加速化係数の減額分（国立大学で計100億程度）は、ミッション実現加速化経費の教育研究組織改革分と基盤的設備等整備分に配分される。成果を中心とする実績状況に基づく配分とは別物である。

→ $\Delta 0.8\%$ という割合は法人化後も続いており、昨今の物価や人件費上昇の中、厳しいものがあるので文科省にも積極的に現状を訴えているところである。

・成果を中心とする実績状況に基づく配分の過去3年実績はどの程度か。

→令和6年度と令和5年度は資料のとおり。令和4年度は $\Delta 35,000$ 千円、令和3年度は $\Delta 20,000$ 千円程度である。

→大学が努力したからといって配分額に反映されるとは限らないのが難しいところ。グループ②でいえば、教育系大学はプラス評価傾向、工科系大学はマイナス評価傾向であり、工科系大学は外部資金獲得を見込まれて、マイナス評価傾向になっているのではないかと推測される。

報告事項 2. その他

森迫学長から年頭挨拶資料について説明があった後、自由な意見交換の時間がもたれ、委員より以下の意見があった。

・海外の大学に比べ、日本の大学は専門分野以外にも積極的なプロモーションを行うことが少なく、このままでは総合力を失ってしまうのではないかと危惧している。

→本学では応募要項の分野を広げたり、選考の初期段階で1名に絞るのではなく、複数人で選考を進めたりしている。優秀な人材がいれば、公募人数1名でも2名採用することもあるし、若手に限らず実績ある教員も積極的に採用している。

・年頭挨拶で学生の活躍を紹介されているのはとても良いことだと感じた。活発な学生は大学の魅力であり、正規授業以外で学ぶことは学生の力になるものと思う。

配付資料

- 資料 1 令和5年度第4回経営協議会議事録（案）
- 資料 2 令和5年度補正予算（第2号）編成について（案）
- 資料 3 令和6年度運営費交付金予定額について

- 参考資料 令和5年度経営協議会スケジュール等
- 別添 令和6年（2024）年頭挨拶
新聞記事